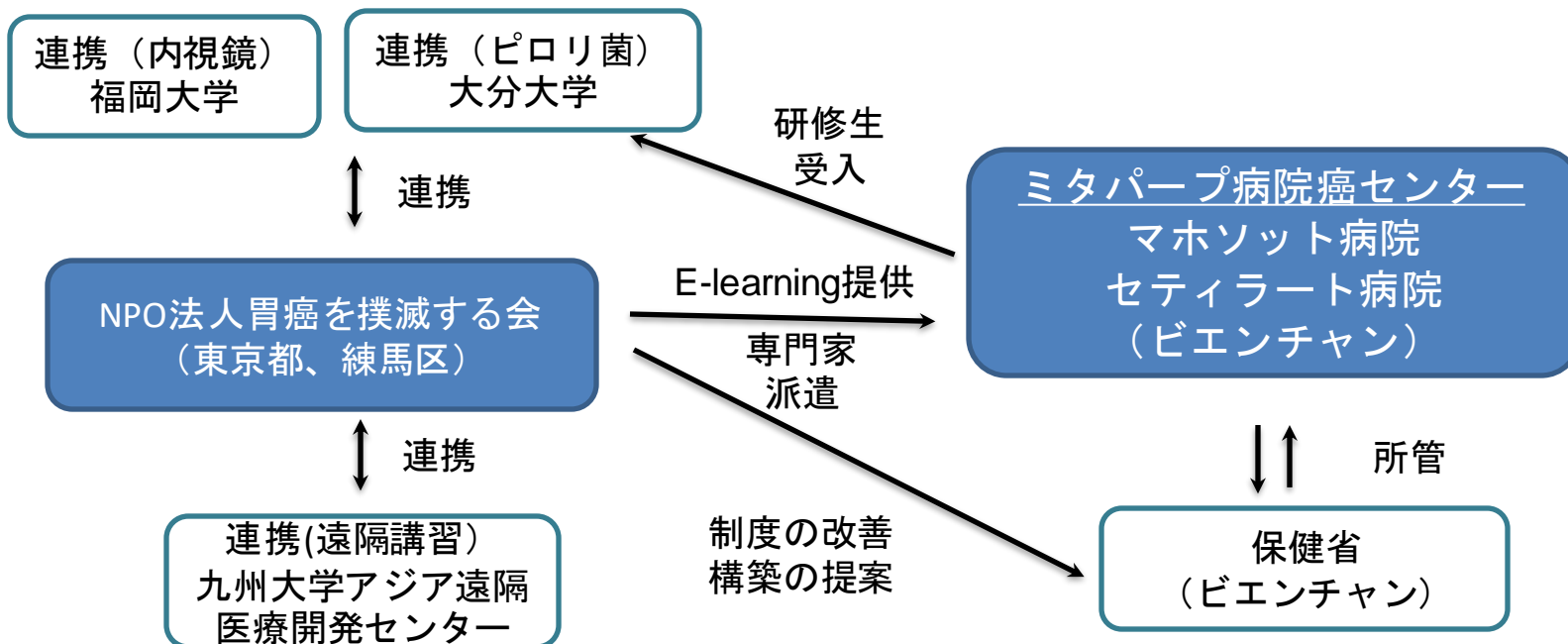


# ラオスにおける胃癌撲滅のための消化器専門医の育成

作成日：令和5年5月11日

1. 現状：ラオスでは胃癌の治癒率が低い。その原因は早期胃癌の発見の遅れと予防（ピロリ菌の除去）の不備によると考えられる。これは早期発見の為の内視鏡技術、ピロリ菌除菌の遅れによる。
2. 事業の最終目的；消化器専門医（内視鏡、病理）を育てラオスの胃癌死を減少させる。
3. 事業の概要：本法人が日本の早期胃癌の世界的権威で本法人の理事である福岡大学筑紫病院の八尾教授と連携しビエンチャン主要3病院（ミタパープ、セテイラート、マホソット）の内科医に上部消化器内視鏡技術研修を行う。また胃癌予防に必須であるピロリ菌の解析を同じく本法人理事ピロリ菌の専門家である大分大学山岡がラオスの上記病院の医師に伝授する。
4. 期待される成果；ラオス人医師が高度な内視鏡技術を研修し、早期胃癌が発見され、ピロリ菌に対する解析手法も得て予防が可能となり、ラオスにおける胃癌死を減少に導く。計画は3年を予定。



- ＜研修スケジュール予定＞
- 7月 日本人専門家派遣（2名）
    - ・ 上部消化管内視鏡手技の基礎
    - ・ 上部消化管内視鏡リスク講義
  - 9月 日本人専門家派遣（1名）
    - ・ 早期胃癌発見のための上部内視鏡操作手技
  - 10月 日本人専門家派遣(2名)
    - ・ ピロリ菌研修
  - 11月 研修生受入（5名）
    - ・ 内視鏡の実技研修(福岡)
    - ・ ピロリ菌の診断研修(大分)
  - 1月 オンライン研修（20名）
    - ・ 胃癌に関するオンライン研修